

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600049		
法人名	株式会社ピュアロージュ		
事業所名	認知症高齢者グループホーム亀岡陽風荘		
所在地	京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9-6		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和3年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691600049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通り上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭的な雰囲気(空間)作り」 ・落ち着いた過ごせる空間。 ・日常生活作業(タオルたたみ、食器拭き、掃除)などを協力して頂き、生活の役割を持って頂いている。 ・特に手芸には力を入れており、季節のものはもちろん。その日、その時のニーズに合わせたものや、利用者個人の好み に合わせた作品作りを、手作りで提供させて頂いている。 ・「利用者本位な生活」 ・ケア時は、利用者の意向を伺い対応している。 ・職員は、利用者の目線、思いを汲み取り対応している。 ・可能な限り否定的な関りを持たず、言動を尊重するように対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム亀岡陽風荘は、自然に恵まれ静かな環境の中、心豊かに穏やかな暮らしができるようにという思いで、株式会社ピュアロージュにより、平成21年4月に設立されました。半年前の外部評価結果の目標達成計画を「利用者の思いを聞き取り、くみ取る」として、認知症の利用者の気持ちに寄り添った支援の仕方を職員は利用者との向き合い、寄り添い、管理者の手本を見て、日々の行動から、「気づき」や「なんで？」と深いところまで利用者の姿から学び利用者の思いに沿った支援に努めています。それらの職員の情熱が、職員3名の介護福祉士資格取得に繋がられ、仲間で育つ事業所へと変革して行っています。「コロナ禍だから」「コロナ禍でも」出来ることを模索され、利用者のADLが低下しない工夫に努められ利用者は毎日の生活の中で、食事作り、掃除などの役割を持ち、体を動かしての体操やちぎり絵、ぬり絵、季節の花作りなどの作品作りを利用者の希望により取り組まれています。利用者や職員のヒヤリングでも管理者のリーダーシップは高く評価されていました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を定め、「人と共に・自然と共に・地域とともに」を基本理念としている。又、「その人らしさを支える」を理念に挙げ職員と共有し、実践に繋げている。ユニットで具体的に大切にすることを職員間で話し合い、構築しています。	開設時からの理念を玄関や相談室に掲示し、運営規程に掲載している。利用者同士や職員との関係、自然の中で散歩や栽培活動、地域と共に暮らせることを大切に会議の場で話し合い、利用者に生活の仕方の希望を聞き、コロナ禍でもその人らしく暮らせるように介護計画に取り入れて支援をしている。職員は会議や失敗した時に理念を通して振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、新型コロナウイルス感染の為に交流は行っていない。以前は、公民館の清掃活動、荘周辺の美化活動、近隣小学校の音楽祭鑑賞、交通安全見守りを実施。一部の利用者は、近隣のお店での買い物を行った。	コロナ禍で例年実施していた地域と共には取り組めていないが、利用者の作った作品を町内の保育園に持って行き喜んで貰っている。新たに「地域推進会議」を開催し、地域包括、病院内相談室・看護ステーション、保健所の保健師や自治会長、区長、駐在所、民生委員、主任児童委員、総合福祉施設などと地域包括の視点で「寝たきり高齢者災害時避難支援」について話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流自体は、少ないが1/2ヶ月の運営推進会議にて、意見交換を実施。ホームページ・広報を発行を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1度開催しておりご家族、地域住民代表、民生委員、自治会代表、包括支援センター職員、市の担当者等で構成しています。ホームの活動状況や利用状況の報告を行ったりして頂く中で頂いた意見を、サービスの質の向上に繋げられるように取り組んでいます。	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と合同で対面会議を中心に、緊急事態宣言が出ると書面開催に切り替えている。利用者の状況や事故報告、活動報告、今後の予定を伝え、報告事項の食事形態、転倒については意見交換をし、課題を職員会議で検討した結果を次回の会議で報告している。議事録は行政・家族・メンバーに配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に、自治会、民生委員、駐在所、市担当課職員、包括支援センター、管理者、リーダー、ケアマネを出席を行い、事業所内の「実績、ヒヤリハット、事故報告など」を報告している。	運営推進会議で事業所の現況を知って貰い、コロナ禍で、行政主催の事業所連絡会や研修は開催されていないが市の担当課には気軽に訪ねていき顔を見るだけでお互いに声を掛け合う関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みを行い研修会等で全職員が理解している。GH独自の行為・行動を妨げない為の意識づけも行っている。玄関の施錠はもちろん言葉の掛け方にも日々気を付けている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し年4回の「身体拘束廃止・虐待」の研修を行い受講後はレポートを作成して振り返っている。(レポートを確認)玄関の施錠をしない介護や、利用者の立場に立ってのケアができるように、職員の連携と見守りを徹底している。	

京都府 認知症高齢者グループホーム亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、安全にケアを行えるようにしている。 日々、利用者の身体観察を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度の研修等を実施し学ぶ機会を持って実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面等を提示し説明を行っている。又、家族等が疑問など挙げられた時も、再度説明を行い理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケート調査の実施。今年度の目標の1つであった家族会設立及開催(8/27)が実施できた。面会時にも、意見交換を行い日々のサービスに活かせるようにした。	意見箱やアンケート調査、面会時、運営推進会議で意見を聞く機会を設けているが、12月末から面会中止になり、電話で話すことや毎月発行している広報紙に個々の利用者の様子を書いた手紙に利用者の言葉と写真とを送付して喜んで貰っている。8月に家族会を設立したが、コロナ禍のため開催できていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・GH会議・亀岡・本社会議にて意見交換。業務改善等に繋げるなど運営や日々の支援に反映させています。内容によっては管理者に挙げ決定することもあります。意見や要望を運営に反映している。	毎朝の申し送りや月1回の全体会議、グループホーム会議で職員からの意見や要望を聞いている。設備面での購入希望が多く、利用者の状態の変化に合わせた福祉用具購入の提案を受け、職員の意見が運営に反映し、安全な支援に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、勤務実績を管理している 日々、環境の良い職場を作れるように努めている。資格取得支援の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施。 また、自己評価、及び管理者が評価を行い力量を把握を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、新型コロナウイルス感染の為に交流は行っていない。 他事業者との交流は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者とコミュニケーションを取り、不安な事や要望、思いを汲み取り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時を含め、要望を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、アセスメントを作成し利用者の情報を把握し提供。場合により他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬心を持ち、共に生活を行っている関係を築けるように努めている。 しかしながら、一方的なケアを行っている事も現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、生活状況の報告・相談などを行い共に支え合えるように、協力関係を築いている。 月に一度、荘から生活の様子のお手紙を作成しお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時等に情報収集は行っている。 現状、関り等は行っていない。 今後、提供出来る様に検討していく。	フェイスシートで情報収集して入居まで住んでいた家に行き落ち着いて貰ったことや小規模からグループホームに入所された方は、小規模から訪ねに来られていた。また、近くの馴染みの店への買い物に行っていたが、コロナ禍で全て出来ていない中で、馴染みの理美容師さんに2か月毎に来て貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション活動（作品作り）を提供し関係性を持って頂いている。また、利用者同士のトラブルを発生させない為、配席の考慮や職員が関りの仲介に予防に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関係性、支援は行っていない。必要に応じて、出来る範囲で努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを汲み取り、様々な面で情報収集し、思いを尊重し生活して頂ける様に努めている。	家族にフェイスシートを記入して貰いセンター方式でのアセスメントや生活の中での言動を観察し、ケース記録や申し送りノートに記入し意向の把握に努めている。意思表示が出来ない方は、利用者の表情や目線などで様子を伺い、思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを作成し把握に努めている。センター方式を活用し個々の把握に努めている。ご家族の面会時やモニタリング時にも聞き取りを行うなどこれまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活言動を観察し、ケース記録・申し送りノートにて、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成し入居当初は1か月で見直しを行い、その後は3ヶ月毎に家族や看護師に参加してもらい、モニタリングを行っています。モニタリング後は職員間でサービス担当者会議を行い介護計画の見直しについて再検討し特に変化がなければ1年毎に見直し、必要に応じて往診時に聞いた医師の意見等も反映させています。課題が生じた場合は都度アセスメントを行い見直ししています	フェイスシートや今迄の情報や医療情報を基にアセスメントを行い、家族・利用者・看護師も参加したサービス担当者会議を行い介護計画を作成している。日々の利用者の様子はケース記録に記入し、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。6か月毎のカンファレンスの前は面会時に家族の意見を聞き往診時の医療情報も加味して再アセスメントを行い、変化の様子は色を変えて記入し、介護計画の見直しをしているが、変化がなければ1年の見直しのケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、日常生活に関すること、ケアプランに関する事で分けて記録し、またSOAP記録を用いて記録する事で、日々の記録からも問題点や様子を共有でき、かつプランの見直しが行いやすい記録を残すようにしている。		

京都府 認知症高齢者グループホーム亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に応じて、理美容やマッサージ等、出来る範囲でその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本梅町 地域推進会議 寝たがり高齢者災害時避難支援で受け入れ支援施設です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問往診診療している。 家族様の希望あれば入居前からのかかりつけ医を継続している方もおられる。受診時は情報提供表を記載し、必要時は職員も同席し医師に状況を説明し、適切な医療を受けるようにしている	契約時に月2回の協力医の往診を利用して貰う事の詳細を得ている。また、今迄見て貰っていた専門医への受診時は協力医からの情報提供がある。協力医、訪問看護師共に24時間オンコールで緊急時は家族からの「事前意向確認書」にそって対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に情報を伝えた上での電話相談、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を往診医師より医療機関へ送ってもらい、退院時には病院関係者との情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に説明・確認を取っており、ご本人の状態の変化や家族の意向に沿った内容への再確認も行っている。又、その内容はユニット会議等で話し合われる。	「重度化した場合における対応に係る指針」をもとに契約時に説明し、家族、利用者の意向確認と共に「事前意向確認書」を書いて貰っている。また、容態変化時に医師の指示のもと再度、意向確認を行っている。職員は研修を受けユニット会議で共有している。看取りの実績があり、家族の見守りと遠方からの家族も全員が揃い別れられたことを感謝された経験もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員が確認出来る様に準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち会いの元、避難・防災訓練を実施している。 地域との協力体制は築けていない。	コロナ禍で今年度は消防署の参加はなかったが、訓練の計画書を持って行っている。どのような状態であっても勤務している職員で、利用者優先の避難誘導が出来る訓練をしている。さらに「洪水時の避難確保計画」を策定して消防署と合同の訓練を行った。訓練の時は地域には知らせたり協力要請は出来ていないが、運営推進会議で予告と報告をしている。備蓄は食料品や新聞紙・水・毛布・ナイロン袋などである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、プライバシーを配慮したケアを務めた。 否定しない声かけ、不適切な声掛けをしない様に務めた対応している	職員は研修で学びレポートを作成し確認している。 職員は利用者の人格を尊重し、慣れてしまうがゆえに黙って、してしまう時があるので、ケアをする前に声をかけてから支援をすることや、利用者の顔を見て声をかけることを大切にしている。「介護をする上で慣れてしまっただけは駄目だ」と管理者の厳しい指導が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを聴き自己決定をして頂ける様な関わりを持つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的なケアにならるように、希望を伺い対応を行うようにしました。予定を一緒に立てるなど、利用者との時の流れを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者により異なるが出来る範囲で整髪、洗顔などを実施して頂けるように声掛けしその日に着たい服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	人間関係を考慮したうえで配席を考える、生活感や季節感を採り入れらなら食事提供を行うように心がけている また、出来る範囲で食事準備を行って頂き（台拭き、食器拭き、軽量の食器運び）	利用者の好きなものを聞きながら、献立をつくり三食とも利用者と一緒に調理の準備や片づけをしている。4人の利用者が、皮むき、切る、炒める、煮る、味付けをされ、他の方は洗米、台ふき、食器ふきなど、それぞれ利用者のやりたい気持ちや力に応じて行って貰っている。暦の上での行事食や誕生日には好みの物を作り、パンバイキングが喜ばれ、いつもよりよく食べられている。おやつではホットドッグ、たこ焼き、べた焼きなど、昔のことを思い出しながら、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取に記録を行い摂取状況の把握をしている。又、身体能力に応じ形態を検討し提供を実施している。		

京都府 認知症高齢者グループホーム亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じて実施。自身で行える部分は実施して頂き、仕上げはケアを行い実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を行い、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、定期的な排泄声かけを行っている。	利用者の自尊心を大切に気持ちよく過ごしてもらうためにも夜間も誘導をしてトイレでの排泄を促している。排泄チェック表に記録をし定期的に声掛けをすると共に励ましたり表情やしぐさなどの様子に気を配っている。全員紙パンツとパットで過ごされている。失敗された時はさり気なく取り換えを手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	穀物、いも類や豆類、ひじき、寒天、果物など、食物繊維と整腸食（ヨーグルト）の提供、水分を十分にとり服薬の調整にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本ベースの作成（週2回）の基に意向を伺い対応している。拒否などがみられる時は、日時などを変更し対応している。	週2回、利用者の希望に合わせて入浴させている。石鹸やシャンプーは好みの物を持って来て貰い、柚子湯や入浴剤などは希望に沿って使っている。福祉用具の支柱や回転盤などをそろえて安全安心に入れるようにしている。また、リフト浴を使っている方もいる。希望者は同性介護で対応している。入りたくない方には無理をしないで、職員と話し合ってもらえると「気持ちが良いわー」と長湯の方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の、体調、気分に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法などを理解し支援を行っている。服薬後は、身体変化が無い確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割、手伝いを行って頂いている。（テーブル拭き、洗濯たたみ等）行事やその準備、レクリエーション誕生会等を行い支援している。		

京都府 認知症高齢者グループホーム亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で行っている。(散歩) また、家族さん同伴で外出される事もみられる。地域との協力は行えていない。(現在、コロナ感染予防の為、企画自体行っていない。)	コロナ禍までは、日常的な外出や外食、家族との外出、近くの商店での買い物などもおこなっていたが、今は敷地内の庭にテーブルや椅子を出して、おやつを食べたり日向ぼっこを楽しんでいる。11月にドライブで亀岡コスモス園に行くことができ、利用者は喜ばれ、笑顔の写真のおたよりを家族に届けることができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者から金銭の預かり限度額3万円以下とし、一人ひとりの希望や嗜好品に応じて使う支援をしている。また出納帳に記載し月末に家族様に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的には行えていない。 希望に応じて電話の取り繋ぎ対応や、利用者によって携帯電話を使用されている。家族から時折り、手紙が届いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、清掃、空調管理を行っている。 ホール内は、季節感を感じて頂けるように創作物を飾ったりしている。(利用者で作成)	共用空間は毎日清掃をおこない、温度や湿度は空調で管理され、快適に過ごせる共用空間となっている。室内には自然の風と共に畑や稲作の匂いが入り込み、居ながらにして四季折々の季節を楽しめ、壁には季節に合わせて利用者で作った作品が飾られている。オープンキッチンからは食事の匂い、そして、壁に掛けられた時計や大きな手作りカレンダーで生活感が感じられ、家庭的な雰囲気でも落ち着いた過ごせるようにしてある。テーブルから離れたところにソファとテレビを置き、見ていない時はテレビを切っている。隣の畳の間では利用者と一緒に洗濯物をたたんだり横になられる方もある。建物はバリアフリー設計で利用者に優しく造られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関などにイスやソファを置き、一人になられたり、気の合う方とおしゃべりを楽しんで頂いている。仲の良い関係を職員は把握しており話しやすい席などの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には自宅で使用していた家具等を持って来られたり、生活に合わせてテレビや冷蔵庫を置いたり、写真や思い出の品を自由に飾るなど、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	窓から自然に恵まれた見晴らしの良い景色が眺められ、ベッド、空調、カーテン、ロッカー、洗面台が設けられている。使い慣れた馴染みの家具などを置き、家族の写真などを飾り、日頃作られている手作りの作品や花などが飾られ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や個人の押し車の置き場所にも配慮している。歯磨きセットや洗剤などの置き場も随時検討し、安全な環境作りに心がけている。		